慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ビジネスプロセスの整合性から見たM&A成功への提言：クロスボーダーM&A成功に向けての考察
Sub Title	
Author	李, 相完(I, Sanwan) 中村, 洋(Nakamura, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2010年度経営学 第2496号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2496

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学籍番号 80930038
氏名 李 相完

主査 中村 洋
副査 1 池尾 恭一
副査 2 坂爪 裕

研究テーマ

ビジネスプロセスの整合性から見たM&A成功への提言
―クロスボーダーM&A成功に向けての考察―

内容の要旨

筆者は前職LG電子での勤務を通じて、買収された側の従業員たちと一緒に働きながら仕事のやり方や手順がお互いに合わないという問題を経験した。また、買収された側の従業員たちが買収した側(LG電子)に統合されることに心理的な抵抗を表していることも経験した。心理的な抵抗の裏にはLG電子を格下とみる買収されたアメリカ企業(格上)のレベル感が隠れていることを感じた。筆者はこれら二つの問題、「仕事のやり方と手順が合わないこと」と「統合への抵抗感」はM&A後のビジネスプロセスの整合性の問題であると考えた。企業戦略の一つとして行われるM&Aだが、このような経験を通して、いかに戦略的に正しいM&AもM&A後のビジネスプロセスへの配慮がなければ失敗するのではないないかと考えた。

そこで、本研究の目的は、M&A後のビジネスプロセスの整合性に焦点をあてたM&A成功に向けての考察を行うことである。本研究の範囲は韓国企業によるアメリカ企業買収(つまりクロスボーダーM&A)で問題を認識したことからクロスボーダーM&Aに焦点を絞ることと、クロスボーダーM&A成功に向けての提言を行うことにした。

研究方法としては、最初に文献研究を行いビジネスプロセスの定義をした。それからフレームワーク(ビジネスプロセスの整合性に関するマトリクス)の構築・類型化を試み、それぞれの類型ごとにケース分析を行った。ケース分析の範囲は格上・格下というレベル感がクロスボーダーM&AでみられたことからクロスボーダーM&Aにできる限り絞ることにした。

研究成果としてはまず、M&A後におけるビジネスプロセスの整合性の問題を、『格上と格下というレベル差による抵抗感の有無』と『ワークフローの整合性』を軸に、4つの類型化が可能になった。それからこの類型化に基づいて行われたケース分析から、それぞれの類型ごとに成功へのキーワードを導出するとともに、『ビジネスプロセス整合性から見たグローバルM&A成功への提言』を行った。